

木梨陸恒・高恒連署書狀

(備後)

今度对此方無御別心御入魂事候間、尾道、三原之内
御望以在所申合事候

一 貳貫文

辰房屋敷

一 貳貫文

道散屋敷

一 貳貫文

細屋敷

一 貳貫文

龜河弥太郎屋敷

一 壹貫文

長尾彦太郎屋敷

一 壹貫文

鞆屋屋敷

一 壹貫文

龜河太郎四郎屋敷

一 參百文

龜河孫四郎屋敷

一 棟百文

伊与屋屋敷

以上引合參屋敷分進之候

但、此内於出入有蒙仰又可申入候。是ハ御方
此方無御等閑智音可申問之儀候。尚々委細
田与可被申候。恐々謹言

大永六丙戌 (二五二六)

霜月朔日

(十一月一日)

陸恒 書判

高恒 書判

高須中務大夫殿 御宿所
(元胤)